

## ■ 2学年進路講演会概要

2年生を対象とした進路講演会が行われました。河合塾から講師の先生をお招きし、「現役合格に向けて」と題してアドバイスをいただきました。2年生向けの話ではありますが、1年生にとっては先々の見通しをもつために、3年生にとっては今からでもできる取り組みを探すきっかけとして、参考になる話も多々ありますので、講演の概要・ポイントをまとめておきます。ご家庭でもぜひ話題にさせていただきたいと思います。

## ● 現役合格に向けて

『努力した者が成功するとは限らない。しかし、成功した者は必ず努力している(ベートーベン)』

○覚悟をもって勉強に向かう浪人生の姿

・開門前に玄関に並んで自習室(全員分の座席数はあるにもかかわらず)の座席を確保し勉強(並ぶことすら周りに負けたくない、という強い意識)

・授業はその日のうちに必ず復習(1日たつと曖昧になる)し、後回しに絶対にしない

→すべて現役時代には逆の取り組みであった(反省)

ここまでやる人でも不合格になりうるのが大学入試

○学力のピークはどこにもっていけばよいのか?

・共通テストだとすれば、あと435日(8科目で配分すれば1科目当たりもう50日程度しかない)

・理想は「最後の校外模試の日」ここをピークにもっていくための計画を立てる(あと373日)

→最後の模試をEで終えるかAを出すかは気持ち的に随分違う

○30年前は「3年になったら受験生」と言われた

→20年前あたりから「3年0学期」という言葉が流行

→今はそれでも遅いくらいと言われる(2年の夏から本格的に準備を始める受験生もいる)

## Part. 1 「大学入試を知る」

○大学入試の種類は3つ「総合型」「学校推薦型」「一般」

・「総合型」は「おいしい」入試ではない

(理由)・今は学力を測定する評価方法で実施している

・全員受かる訳でない(落ちてから焦って一般入試の勉強を始めても間に合わない)

○共通テストと個別試験、どちらが大事?

→どちらも大事(個別試験が高配点の大学であっても)

・共テは地区予選、ここで負けたら全国大会に進めない

・東大は110:440の配点比だが・・・

→そもそもハイレベルな争い(逆転が難しい)、1点でも多くとったほうが有利

○安易に私大に流れないほうがいい

・教科を絞るということは、「スペシャリストの戦いになる」ということ、決して楽ではない(倍率も高い)

・全教科得意という人はいない、逃げずに残った方が楽ということもある

○近年の大学入試は競争緩和

・コロナ以降の倍率低下→挑戦が報われる入試に

・どの成績層も5年前より合格率は上がっている

・女子枠導入大学の増加(特に理系)

○新課程入試(共通テスト)のポイント

・「情報」の新設や国語の出題範囲の新設

→恐れる必要はない

・以前より80分の試験時間増(頭の体力が削られる)

→普段から60分、80分集中し続け、それを反復、継続する訓練をしておく必要がある

・ポイントは「時間」

①休み時間が長い→振り返らない、切り替え

②拘束時間が長い→エネルギー補給

③試験時間が長い

○学問を究めたいのであれば国公立大は有力な選択肢

・前女→教員1人あたりの生徒数は12~15人

・東大→教員1人あたりの学生数は6人

・私大→教員1人あたりの学生数30人以上の大学も

## Part. 2 「高2の今、やるべきこと」

○何故浪人することになったのか?をふまえて

・現役生が緩むのが春休みと高校入試期間

→ここで気を抜くとこれまでの努力を無駄にしてしまう

・大丈夫な教科、苦手な教科を「書き出す」

→敢えて書くことで苦手を「可視化」する

・基礎基本の重視(難しいことばかりやりすぎない)

・苦手科目を得意科目にしようと思わない

→まず「足を引っ張らないレベル」にまで到達させる

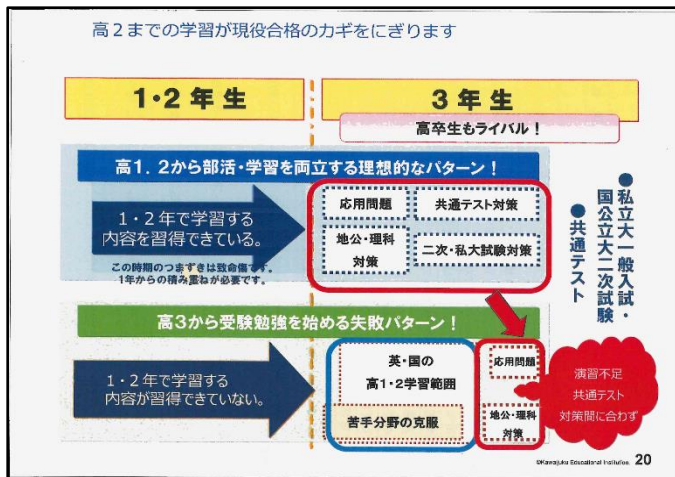
○高2までの学習が現役合格のカギ

・共通テストの7~8割は高2までの内容から

・2年までの内容を「2年のうちに終わらせる」

→これを3年次に持ち越すと苦勞する

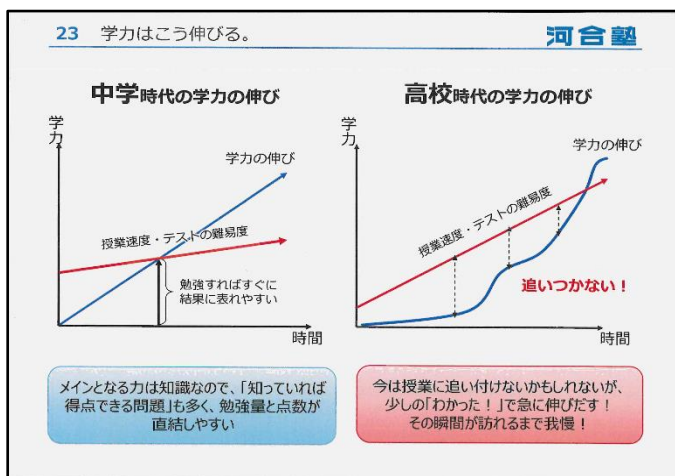
・数I Aは「明日本番でも大丈夫?」な状態に



- ・理社における浪人生との差をどう埋めるか  
→英数国の対策を前倒しで進めておかないとこの差はなかなか詰まらない

○学習は質？量？

- ・やっていない人ほど「効率」を主張する
- ・学力向上には「質×量」（どっちも大事）
- ・「これだけやったんだからこれでダメなら仕方ない」と腹をくくれる生徒は強い



○学力の伸び方は中学時代とは違う

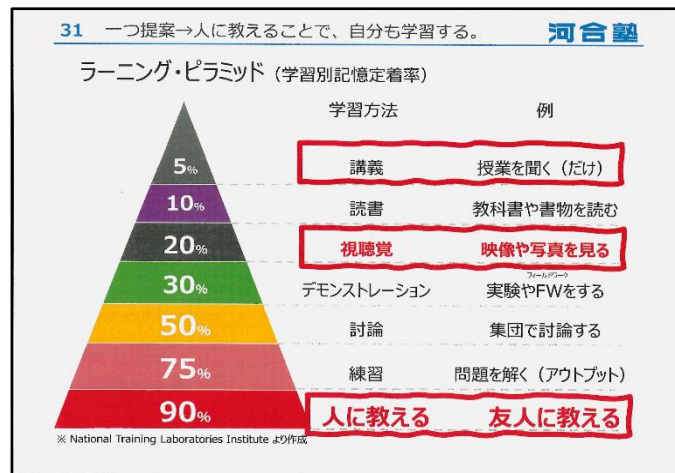
- ・学力が授業に追いつくには時間がかかる  
→「分かった！！」のきっかけで急に伸びだす（そこまで我慢）

○校外模試では1点に拘れ

- ・判定はまだ気にする必要はない（6割はE判定）
- ・各教科の偏差値、教科バランスをよく見る
- ・分からなくても極力白紙にしない（抵抗を見せる）
- 模試で1点に拘れない人が本番で1点をもぎとれるはずがない（ボーダー近辺「あと1点ゾーン」には人が集まっている）
- ・模試を受けたら「その日のうちに必ず見直す」

→1・2年生の諸君は、明日の模試から早速実行すべきです！！

○人に教えることで学習効果を高める



- ・ただ聞いているだけでは記憶に残らない
- ・人(友達)に説明できるようにする(互いに添削など)

■1学年企業研究所訪問を実施しました



令和6年度 大学・企業見学先一覧表(11/1(金)実施)

コース	午前(大学)	午後(企業)
1	早稲田大学早稲田キャンパス	最高検察庁(東京都千代田区霞が関1-1-1)
2	立教大学池袋キャンパス	独立行政法人 国際協力機構
3	東京大学 本郷キャンパス	(株)文藝春秋
4	東京大学 本郷キャンパス	あずさ監査法人
5	東京大学 駒場キャンパス	ハウス食品グループ
6	東京理科大学 葛飾キャンパス	日本航空羽田整備場
7	東京農工大学 小金井キャンパス	SUBARU東京事業所
8	東京農工大学 府中キャンパス	キューピーマヨテラス
9	お茶の水女子大学	中外製薬株式会社

1年生は1日に東京方面の大学・企業訪問に行ってきました。慣れない交通機関を乗り継いで、興味のある大学や最先端の研究施設などを見学してきました。OGの大学生も大学案内に協力してくれました。